

# ボツワナ女子ソフトボール代表チーム

在ボツワナ日本国大使館

2018年8月、ボツワナ女子ソフトボール代表チームは、日本で行われた第16回世界女子ソフトボール選手権（WBSC）にアフリカ第1代表として参加しました。

現在、同国のソフトボール・リーグ、代表チームの管理運営、ソフトボールの普及を行っているボツワナソフトボール協会（BSA）に青年海外協力隊として中村藍子さんが派遣されており、日本で開催されたWBSCでも代表チームに帯同しました。

ボツワナ代表チームは、予選、順位決定戦を通じて全敗し、結果は思わしくなかったものの、参加した選手たちにとっては世界のレベルを肌で感じ、今後の競技技術の向上に向けて大変有意義な機会となりました。

近年、同国のソフトボールの競技人口は男女ともに増加傾向にあり、国全体で約4.3万人とされています。また、アフリカ地域及び国際大会における同国選手の活躍ぶりが現地メディアで頻繁に取り上げられ、ソフトボールに対する関心が一層高まっています。

日本政府は、2016年度の草の根文化無償資金協力「ソフトボール球技場及び器材整備計画」において、BSAに対してソフトボール球技場の芝生整備のための灌漑設備設置及びソフトボール器材の整備のための約6万5千米ドルを供与しました。

また、JICAは、中京大学のソフトボール部の学生及びコーチを毎年1回、1か月程度、ボツワナに派遣する覚書を締結し（連携期間：2017年6月～2020年5月の3年間）、2018年2月～3月にかけて同覚書に基づき中京大学のソフトボール部の学生及びコーチがボツワナに派遣される等、日本は様々なスキームを通じて同国のソフトボール技術の向上及び健全な青少年の育成を支援しています。

東京オリンピックへの道のりはかなり険しいものの、日本の支援を受けながらボツワナ女子ソフトボール代表チームはオリンピック出場を目指し、日々練習に励んでいます。